

2 女性獣医師の活躍推進のための理解醸成

(1) 雇用者等の理解醸成

雇用者、管理職に対する啓発活動は重要であり、企業等の獣医師でない雇用者等も視野に入れ、繰り返し実施することが必要である。小動物診療分野の環境整備の遅れが指摘されていることから、動物病院の院長への理解醸成に、特に力を入れる必要がある。また、獣医師の地域、職域偏在の問題を共有し、その是正のために女性獣医師の活躍推進が必要であること等について、より広い関係者に理解を深めてもらうことも大切である。

ア シンポジウムの開催

平成 29 年度、日本獣医師会獣医学術学会年次大会（大分）にてシンポジウム「女性獣医師の職場環境のより一層の整備充実を」を開催した。女性の活躍推進のための制度の変遷、労務管理関係制度、日本獣医師会の取組みの紹介のほか、産業動物臨床、小動物臨床、公務員の各職場での取組みと課題等が紹介され、小動物病院長、若手の男性獣医師等から質問が出されるなど意見交換も活発に行われた。最終日の最後のプログラムでもあり、参加者は 46 名であった。

このシンポジウムの講演要旨は（別添 1）のとおり、各講演者のパワーポイント資料、動画は女性獣医師応援ポータルサイト（e-ラーニング）に掲載されている。

平成 30 年度、年次大会（神奈川）にてシンポジウム「獣医師の働き方改革について考える－女性獣医師活躍推進のために－」を開催した。基調講演「女性活躍促進と働き方改革の現状と課題」は、前内閣府男女共同参画局長武川恵子氏に依頼。世界の動きも含めた男女共同参画の歩み、日本の遅れている実情、女性の活躍を進めるために重要なポジティブアクションや働き方改革等について詳細に紹介された。また、「共働き獣医師夫婦のバトタッチ型育児休業男性側経験談（取得の有無が及ぼす影響と職場環境について）」のほか、日本獣医師会、地方獣医師会、大学における取組みについて紹介された。参加者は、26 年度に岡山で開催したシンポジウム以降最多の 123 名、参加者のアンケートの記入も最多で記載内容も充実していた。また、特に参加していただきたかった小動物病院の院長の参加も多かった。積極的な意見交換が行われ、後述する新たな数値目標の設定等についても前向きな感触が得られた。

このシンポジウムの講演要旨は（別添 2）のとおり、各講演者のパワー

ポイント資料、動画はポータルサイト（e-ラーニング）にまもなく掲載される。また、このシンポジウムに参加したことをきっかけに、地域の小動物診療分野の獣医師や関係者を対象としたシンポジウムを開催する等の動きも見られた。

イ その他の取組み

地方獣医師会等が開催する女性獣医師の活躍推進を目的とする会合に、委員や前委員が参加し、話題提供や意見交換を実施した。また、労務関係法令、保険制度等に関する手引書を作成するための資料の収集と検討を行い、アに既述したシンポジウムにおける講演資料等を活用していただけるようポータルサイト（e-ラーニング）に掲載した。

○ 今後の課題

シンポジウムに参加される方はある程度関心をお持ちの方であると考えられ、関心が低く参加されない方々への伝え方を工夫する必要がある。理解醸成のための働きかけは、シンポジウム以外にもあらゆる機会をとらえ、繰り返し繰り返し実施することが大切である。地域での獣医師の会合、病院内等職場の集まり等の折に、シンポジウムのスライドや動画を活用して、働き方改革についての話題提供、労務管理関係制度の説明や成功事例の紹介等を進めていただくため、ポータルサイトの掲載資料をより使いやすく整理、充実させる必要がある。

雇用者向けの労働関係法令、保険制度等に関する手引書については、公務員や産業動物診療分野（NOSAI）に比べて関係制度の整備が進んでいない小動物診療分野を対象に作成する必要がある。地方獣医師会において小動物病院向けの就業規則のひな型を作成・配布する等の動きがあることから、優良事例としてポータルサイトに掲載する等により取組みを広げていくことも重要である。

（2）獣医学生の理解醸成

これからの獣医療を担う獣医学生に、女性獣医師の活躍推進（妊娠、出産等のライフイベントを経ながらキャリアを継続していくこと）の意義、労働条件等の支援策の整備とその適切な利用の必要性等について、獣医師としての社会的使命、役割とともに、しっかり伝えておくことが重要である。

獣医学生向けセミナーは、「女性獣医師の就業を支援するための獣医学

生向けセミナー」として、理解が得られた大学から開始し、平成 27 年度 7 大学（参加者 475 名）、28 年度 13 大学（487 名）、29 年度 15 大学（433 名）と増加。30 年度は 16 大学すべてのご理解が得られ、また、ほとんどの大学が放課後の自由参加ではなく授業の一環としての開催であったことから、参加者は 823 名となった。

セミナーの講師は、大学のご要望、学生のアンケート結果を尊重し、委員を中心に、委員の推薦者にも依頼した。

また、セミナーの名称にある「女性獣医師の支援」について、参加した学生から「女性だけに限定する必要はなく男性も」という意見が多かった。一人の獣医師として同じ役割を果たすつもりでいる学生が違和感を覚える気持ちは理解できるが、一方で、妊娠・出産等女性特有のライフイベントを経験する一定期間は、配慮や支援を受けなければ就業を続けられない、ということも理解しておいてもらう必要がある。その上で、「女性支援」ではない表現を用いるよう検討し、「男女ともに獣医師として活躍を続けるためのセミナー」にセミナーの名称を変更した。学生へのアンケートについても、回答の選択肢等に関する様々な意見を受け、設問や選択肢を見直して実施した。

○ 今後の課題

すべての獣医学系大学のご理解を得て獣医学生向けセミナーを開催することができたが、今後も授業の一環としての開催を続けていただくためには、学生アンケートの結果をよく分析し、大学のご要望も伺い、より関心を持ってもらうための工夫を加えて提案することが必要である。

学生セミナーの意図がより学生に伝わりやすいよう、日本獣医師会が行う説明と女性獣医師の講演の順序や内容を見直すことも必要である。日本獣医師会の説明では、「せっかく獣医師になったのだから、男性も女性も様々なライフイベントを乗り越えて、獣医師として社会で責任を果たし、のびのびと活躍を続けていただきたい」ということを簡潔に、しっかりと伝えるようにし、必要があれば講師との事前の打合せを行うことも検討する。

また、学生セミナーの機会に、日本獣医師会は、一人ひとりの獣医師が獣医師としての社会的使命・役割を果たしつつのびのびと活躍を続けていただくための力になれるよう努めていること、その取組みの意義や魅力等をよりわかりやすく伝えることによって、獣医師は雇用者、勤務者、男女を問わず獣医師会に加入する、という自然な意識につながっていくことが望まれる。